

知的障害特別支援学級設置等検討委員会（第5回） 要点記録

実施日時	令和5年10月26日（木）午後2時30分から午後3時45分まで
会場	国分寺市立教育センター
欠席者	1名
会次第	1 開会 2 前回議事録の確認 3 配布資料の説明 4 協議

<p>1 開会</p> <p>2 前回議事録の確認</p> <p>3 配布資料の説明</p> <p>4 協議</p> <p>○報告書（案）の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の概要について、事務局から説明があった。最終回なのでページごとに内容を確認し、意見をいただきたい。 →9ページの地図で、小学校名が書かれているが、これは実際の学校がある位置にその文字を置いているのだろうか。視覚的に実際の位置であると捉えてしまうかと思う。 →小学校名はおおよそ実際の位置で記載している。例えば、六小と五中では実際に隣り合っており、国分寺市の南側にある四小、四中もおおよそ北と南の位置関係であり、特に四中は国分寺市の一番南側に位置している。 →確認であるが、本委員会として、10ページの表に記載されている内容から、設置に関して六小が考えられるという協議の結果が記載されている。しかし、実際は、例えばマンションが建設され、急に学級が増えるなどもあることから、六小に本委員会で決定というわけではなく、一応協議の結果、二小と七小の間というところの位置的な関係も含めて六小が望ましいと結論にはなったということになる。 →10ページの（6）施設設備の内容が、新規に特別支援学級を設置するに当たり、次のような意見があったということで、アイウエオが記載されているが、この書き方だと新設する特別支援学級だけがこれを検討すると読み取れる。施設設備について話をした内容としては、もちろん新設の学級とともに、既存の特別支援学級も、全ての特別支援学級でアイウエオについて、できる範囲で整備していくという本委員会の中での協議があったと思うので、特別支援学級を設置するに当たり、市内全ての特別支援学級という視点も明記しておいていただきたい。 →10ページに移動式ロッカーの記載があるが、移動式ロッカーの安全性は担保される必要がある。子どもが教室の中を動いている最中に、移動式ロッカーで怪我をするなどの心配がある。具体的に、大きさ、重さについて、イメージしにくいことから、安全面についても考えるべきである。 →指摘があったように安全面については当然配慮が必要である。全ての学級を移動式ロッカーで仕切るというわけではないだろうが、例示として、移動式ロッカーなどを用いて安全に仕切ってという意味である。安全面に関する文言も追記して、一例としての移動式ロッカーであることを示すのはどうか。 →実際、教室の壁にロッカーを完全に固定していると、年度によって児童の人数が変動した場合に、その壁からロッカーを引き剥がして柔軟に対応することができない。キャストにロックがかかる移動式ロッカーであると、児童の人数等に応じて、例えば、3人分のロッカーだけ今年度は移動して壁置きにするなど臨機応変に対応できる。 →移動式ロッカーは、子どもが駆け出して、ロッカーを押すと動いてしまうことなどはないか。 →そのようなことはない。ロックがついていることもあり、また、場合によっては壁に設置した

- り、児童の実態と人数によって、教室に固定しているロッカーより柔軟に活用できる。
- 報告書（案）の文章に例えばと入っており、今説明があったように、固定式ではなくて移動式のものを安全に使用して空間を仕切って調整できるようにするというような記載とするのがよい。
- 10 ページの（7）で、新設をした場合の児童の転学は、やはり学年によって人間関係などがあるので、少し段階的な進行で、転学には配慮する必要があると思う。ある年度から学区によって全員転学するとか、ある地区の人は全員異なる学校に一斉転学ということではなくて、経過措置を取るという内容が入っている理解でよいと思う。
- 11 ページの4の今後のスケジュール案では、令和5年度は12月以降の計画が記載されている。令和6、7年度以降は動向を注視するという形で記載されている。今後、教育委員会での決定のもと進めていく内容であることから、このような進行スケジュールでの記載と考えられる。
- 委員会の希望はできるだけ早く設置してほしいという気持ちがあるが、スケジュールを立てると、学校の条件も踏まえ、本委員会としての記載は、「以降」の文言を入れてまとめる形になると考える。
- ・本日5回目の意見を集約し、一部修正があるが、この原案で進めていきたいと思う。本委員会に参加されて、いろいろご意見をいただいていたが、最後に特別支援教育に関する考えや、これまでの委員会の感想でかまわないので各委員からいただきたいと思う。
- 子どもたちが書いたアンケートの回答でほほ笑ましいことも含めて、いろいろな思いが書いてある。最後に記載されている「通常の子どもともしっかりと遊んだりしたいです。」「交流学級の子と一緒に勉強もしてみたいです。」という意見は、本委員会の趣旨とは異なるが、特別支援学級の在り方みたいなものを考えていく必要があるという感想をもった。
- 実際、自分の子が支援学級に入級させる前にもものすごく迷いがあった。将来一人で生きていくためには、社会で、通常学級で学んできた方と出会う機会の方が多いので、そういう面で慣れていってほしいという考えがあった。小学校の6年間を頑張っただけで過ごすよう特別支援学級を選んだが、今考えてみると、担当してくださる先生の努力で、子どもはいろいろ成長することができた。また、こちらからこうしてほしいという要望をたくさん出した時期もあった。児童の人数が増えているということがあるが、全体的に、先生たちも、子どもたちも過ごしやすい環境が作られるのであれば、新しい学級ができるということは喜ばしいことなので、ぜひ実現してほしい。
- 二小は、以前4学級だったが6学級になって、児童が増えていく一方である。学級が新設されるとなると、分かれてしまう子どもたちがいると考えると寂しくなる部分がある一方、新たな特別支援学級が充実するとよいと思う。委員会に参加することで、特別支援学級の教員同士のつながりももつことができたので、新しく新設された学級の先生とも協力してやっていきたいと思う。
- 国分寺市が、児童数が増加していることの課題に対して、当事者の方の意見を聞く、それを反映するという手続きを取っていること、丁寧に対応をしていることについて国分寺市としての特別支援教育にかける情熱のようなものを感じる。感謝すべきことである。それぞれ立場は違うが、関係者が一堂に集まって意見を交わして、子どもたちのよりよい教育環境を作っていくということで、合意を得ることができたということはすごくうれしく思う。皆様のご協力に、改めてお礼申し上げます。

○事務連絡

報告書を修正し、委員長の最終確認後、教育委員会へ提出する。